

MACHI-KADO

Vol.17 静岡文化情報 街かど

閑静な住宅街、学問・文学的な逸話に会おう。

路地裏散策

西草深・東草深

草深おもしろマップ

特集

大空に夢を……

鳥人幸吉物語
教会のある街



Information

静岡市文化振興財団 インフォメーション

旧マッケンジー邸

中勸助文学記念館

駿府薪能

あの日あの時

●草深●

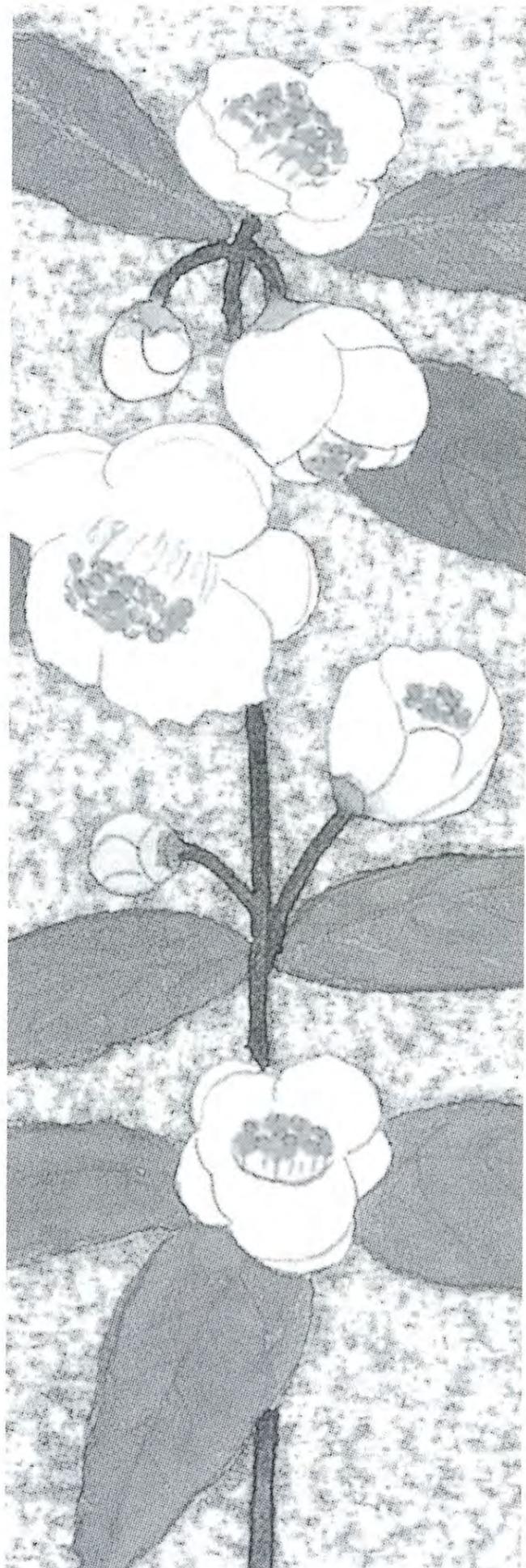
写真提供:海野幸正氏

草深 ああの時日

草深は、駿府城の外堀を囲むように、東側から西北部にかけて造られた屋敷町である。駿府城が築城される前は、この辺りに安倍川が流れており、その河原であったらしい。水草が生い茂っていたことから、「草深」と呼ばれるようになったのではないかとされている。江戸時代初期には、駿府城警護の武士たちの詰め所があった。それを「加番」といい、稲荷神社を祀っていた。現在、鷹匠に一加番、西草深に二加番、そして東草深に三加番が神社として残っている。最初は、一加番、二加番はそれぞれ紺屋町や安西にあったが、1651年に由井正雪事件が起きると、警護を強化するため駿府城の近くに移され、三加番も増設されたらしい。



代表的な西草深の住宅風景。高い木塀に囲まれ、お屋敷町の名残がうかがえる。右側に見えるしだれ桜は、今も健在だ。(昭和30年)



小川澄彦氏作品「お茶の花」

ここにある写真は、昭和30年代に撮影されたもの。高い木塀に囲まれた庭付きの家などこの町の落ちついた雰囲気が伝わってくる。



西草深公園横の路地。突き当たりに浅間神社の石塀が見える。(昭和31年)



現在の長谷通りの天神湯横にあった長屋門。中級武士の屋敷に抜ける門であったらしい。2階は住宅になっている。(昭和53年)



丸いポストが懐かしい。(昭和30年)



長屋通り。1階が商店、2階が住居になっている店舗兼住宅。石のごみ箱が懐かしい。(昭和30年)



長谷通りで行われた祭り行列。正面に浅間神社の石鳥居が見える(昭和33年4月)

「閑静な住宅街」ということばが、これほど当てはまる町はない。市街地からさほど離れてはいないのに、静かでどこか上品な風情が漂う。屋根付きの門がある家も多く、お屋敷町の名残がうかがえる。最近では、西洋のお城のようにモダンな家も目立つようになってきた。

写真提供/海野幸正氏(静岡県写真協会会長・写真家)

西草深

小路

戦国時代、城下町には、戦に備え、敵を袋小路へ追い詰めるような迷路を造った。静岡市内には、区画整理によって一部が廃道となったものの、久能山東照宮へいたる久能街道の出発点にあった現伝馬町の「八幡小路」(現伝馬町)の他、「富士見小路」(現富士見町)、「入小路」・「柳小路」(現浅間町)等いくつかの小路が残っており、西草深町にも、「夕顔小路」・「竹屋小路」と呼ばれる小路がある。

新聞配達伊東君のつぶやき

伊東くんは、西草深の新聞配達を始めて9年。「西草深は、お屋敷町だね。門構えのしっかりした家が多くて、皆インターホンを押して話すので、セールスは大変。日経等全国紙の講読料が多いのが特徴で、地理的には、一方通行が多くて路地が入り組んでるよな。静かで、便利ない町だよ。学生も多くて、時々NHKへ小学生たちが見学に行く姿をみかけるけど、和やかな風景だよな。」炎の中の炎をもやせ♪ほのお～ほのお～♪と作詩作曲した歌を熱く歌いながら、伊東くんは今日も西草深の町に行く。



「竹屋小路のお転婆娘」

はなぶさ よしこ

女流詩人英美子(本名 中林文)も竹屋小路の生まれである。1892年、代々徳川家の儒者として学問所の出仕していた家系にうまれた美子は、かなり快活な少女で「竹屋小路のお転婆娘」と言われていた。「絶えずこわし 絶えずつくり 絶えず散乱させ 絶えず抵抗し 恒に飽和せず」(1974年「授乳考」より)美子は、一度、親の決めた軍人に嫁ぎ二子をもうけるも、封建的な家制度に反発し、子供を婚家に残して離婚した。その後、プロレタリア作家の井東憲との間に一男(後に世界的なギタリストとして活躍する中林淳真である)が生まれたが、結婚という形式にはとらわれず、自らの意思に誠実に生き、それを詩という形で表現し続けた。美子の詩は、恋愛や母性をうたいながらもさわやかで勇気に富んでいる。彼女の精神のあり方、生きざまがそこにはある。

A 夕顔小路の碑

「夕顔小路」、なんとも風雅な名を持つこの小路のあたりには、慶長17年(1612)徳川家康公に駿府へ招かれ、駿河文庫の管理をまかされた林羅山が住んでいた。この小路の名は、羅山の号「夕顔」からとったものとも、逆に羅山がこの小路の名に因み「夕顔庵」と号したともいわれている。昭和になり、大佛次郎がこの名を聞き及び、毎日新聞に「夕顔小路」と題した小説を連載したこともあり、今も「夕顔小路」と刻まれた小さな碑が残っている。この碑は、版画家の故小川龍彦氏とその名を惜しみみ刻字したものだ。



B 小川氏の版画

小川龍彦氏は、夕顔小路に碑を残した小川龍彦氏の次男にあたる。この1月新静岡センターで龍彦氏の遺した「明治・大正・昭和静岡風景木版画展」を開いた。父龍彦氏は、版画家として芹沢銈介、棟方志功に続いて国画奨学賞を受賞した他、芹沢銈介美術館初代館長、県文化財保護審議会会長を務め、又郷土史家として市役所前の静岡の由来の文を書く等様々な経歴を持っている。この龍彦氏が亡くなった昭和63年龍彦氏は東京から帰静し、父龍彦氏の作品集を編集、その後自身の個展も毎年開いていく。龍彦氏の作品は、木版淡

C AGE

小川龍彦氏の奥様がひらいている。ランチからティータイムのケーキセット、そして夜はショットと手作りピザ・パスタが楽しめる。



G 日本人形博物館・日本招き猫館

誰もが見過ごしてしまいそうなその博物館とは…。NHK静岡放送局の並びの建物の柱に、良く見ると「日本人形博物館・日本招き猫館」の文字が。ここは植山さんが個人コレクションを展示公開している小さな博物館である。郷土玩具から始めたコレクションは30年を超える。羽子板、雛人形、玩具、からくり人形等古くは江戸時代のものもあり、貴重な品々ばかり。猫好きな奥様と、猫嫌いなお母さまの狭間で集め始め

たという招き猫は、全国津々浦々のものだけでなく、タイやインドなど海外の招き猫も含め、千数百展にものぼる。東海道400年祭に合わせて、自分のコレクションを公開し始めたという植山さん。今後は、端午の節句に因んだ人形展やからくり人形展など随時開催していく予定。将来的にはホームページも作りたいと夢は広がる。この博物館を訪れてみたい方は054-252-3356までお電話を。



I 竹屋小路

「県庁、警察署、師範、中学、新聞社、丸の内をさして朝毎に出勤するその道その道の紳士の、最も遅刻する人物ももう出払って、初夜の九時十時のように、朝の九時十時頃も、一時は魔の所有に寂寥する。草深町は静岡の侍小路を、カラカラと挽いて通る、一台、艶やかな幌に、夜上りの澄渡った富士を透かして、燃立つばかりの鳥毛の蹴込み、友禅の背当てした、高台細骨の車があった。」泉鏡花の『婦系図』の中にある「草深辺」という章の一節である。『外科室』や『高野聖』で有名な泉鏡花も、ここ西草深の竹屋小路に住んでいたことがあるらしい。この小説からは、当時の草深の辺りの様子がうかがえる。

F 西草深会館

町の人々が集う場所。児童文学者が、子供たちに作文教室を開いたりしているそうだ。

H わか林

旧弁護士宅を使った呉服屋さん。あがって奥の座敷でゆっくりと呉服を見ることができる。奥の座敷からは、池のあるお庭も眺められる。京都にはこんな造りの呉服屋が多いとか。

彩という手法がとられている。これは、木版を使った水彩画で作品のバックと主要な部分に木版を使い、水彩で筆を加えたもので、主に野山の花を描いている。花を描く理由を聞くと「少しキザだけど」と前置きして「花はその美しさを裏切らないから」と語る。静かで繊細な作品に添えられた自身のプロフィールにはなぜか剣道の経歴が付されている。「版画も剣道の平常心で誇張なく描きたい」のだそうだ。龍彦氏の作品は、4月、吉田町で行われるしずおか緑・花・祭で観ることができる。

西草深



「外堀風景～東草深より西草深をのぞむ～」

「明治・大正・昭和静岡風景木版画展」に出品された作品。小川龍彦氏の水彩画を澄彦氏が版画におこしたもので、昭和初期の風景。昭和35年位まで外堀にはわき水が湧いていた。



A 子安観音

鉄筋コンクリート二階建てのお堂になっている。観音講のおばあさんたちが集まる憩いの場。横に御器屋町と書かれているのは、もと膳や椀など食器類を作る職人の町で、昭和44年に西草深に併合されるまでは、御器屋町と呼ばれていたから。

B 青嶋ホール

グランドピアノをかたどったこの建物を目にし、何の建物かと思った人も多いのでは…。静かな住宅街で目をひくこの建物は、4月で25周年を迎える青嶋ホールだ。ここでは、国内外の一流のアーティストを迎え、サロンコンサートを開催してきた。コンサートを始めた当初は、静岡のクラシック人口も演奏を聴く場所も少なかった。地元の音楽家に演奏する場を提供し、また、一流の演奏家の演奏を聴くことができる場所をつくりたいと青嶋ご夫妻が手作りで始めたコンサートは、延べ260回を数える。収容人数が80人程の小さなホールだが、他のホールでは味わえない研ぎ澄まされた音が響きわたり、観客と演奏家とが一体となって時間と空間を共有することができる。聴衆だけではなく、演奏家の間でも評判となり、演奏家の方から出演の申し出がくるという。この陰には、音楽を愛し、人と人とのつながりを大切にしてきた青嶋ご夫妻の姿がある。平成6年には、こうした活動が評価され、「サントリー地域文化賞」をご夫妻そろって受賞された。「たくさんの方に支えられてきたから…」と謙遜されるお二人だが、ご夫妻の温かさと音楽が、私たちの心を癒し続けてくれるであろう。

C 英和女学院

D 染織喫茶ばーれる

不思議な雰囲気のあるのれんが掛かった「喫茶店ばーれる」。こののれんはオーナー木村陽子さんが染織したもの。店内にも木村さんの作品、タペストリーやストールなどが並ぶ。染織とは、文字どおり糸から染め、織機にかけたもの。コーヒーやうこん、自然の色で染め上げただけにどれも温かく、陰影を感じさせる。中にはうこんの葉を織り込んだり、気に入った布を裂いて織り込んだ染織の作品がある。又、展示会へ出展するために着物も作るのだそう。「工夫一つでいろいろなものができる。それが染織の魅力だ」と語る。

E 西草深眼科クリニック

約100年前、カナダ人の茶商が、カナダから材料を取り寄せて造ったのだそう。

F 西草深ポケットパーク

徳川慶喜屋敷跡

G 日本茶房寿苑

寿苑近くの竹垣、茶房とともに日本的な雰囲気をかもしだしている。

H 稲葉理髪

長谷通りに面した稲葉理髪店。昔なつかしい店構え。やってくるのは常連さんたち。皆ゆっくり話をしていく。「長谷通りにあった商店もだいたいなくなってしまった」というのは店の奥さんの話。今や作る人がなくなった手動式バリカンも未だ健在。

I 蔵のある家

通りを歩いていて目をひくのが、この蔵。まるで、江戸時代にもタイムスリップしたような錯覚に陥ってしまう。でも西草深の町にはマッチするんだなあ、これが。

J 西洋風マンション

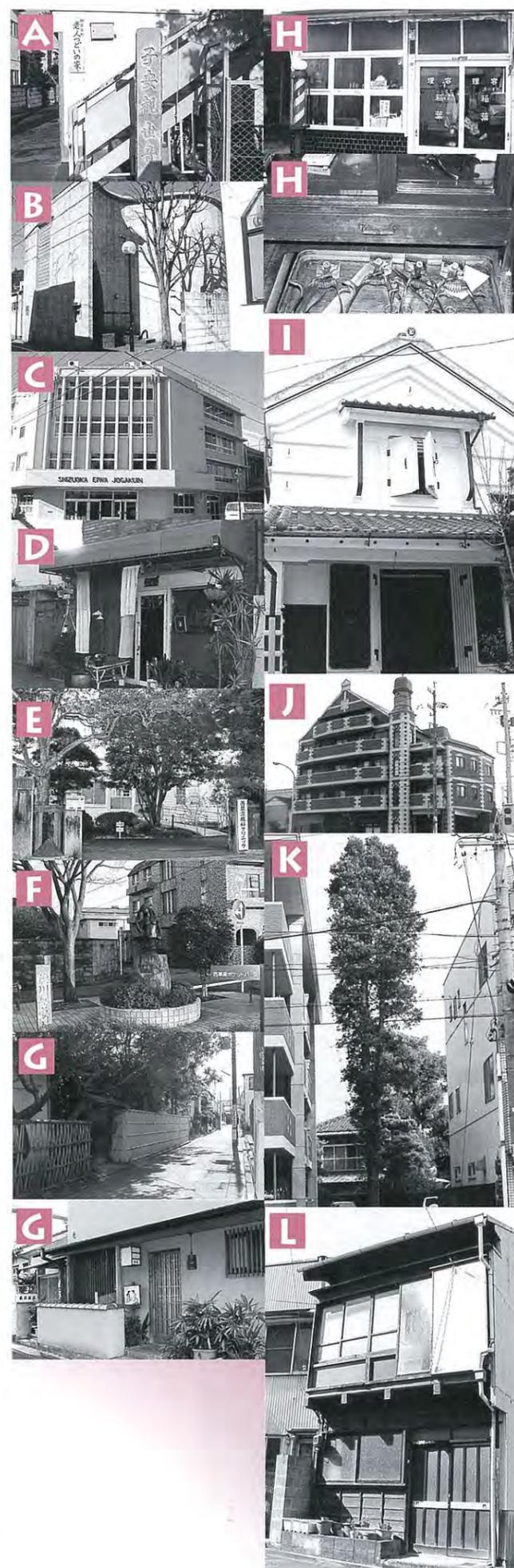
外堀沿いに建つ西洋風のとってもおしゃれなマンション。同志社大学のクラーク記念館をモチーフにして建てられた。マンション全体がバリアフリーになっており、1階にはデイサービスセンターも併設している。ちなみに、浅間神社前に建つマンションも同じオーナーのもの。時計台がついているのがまたまたおしゃれ。

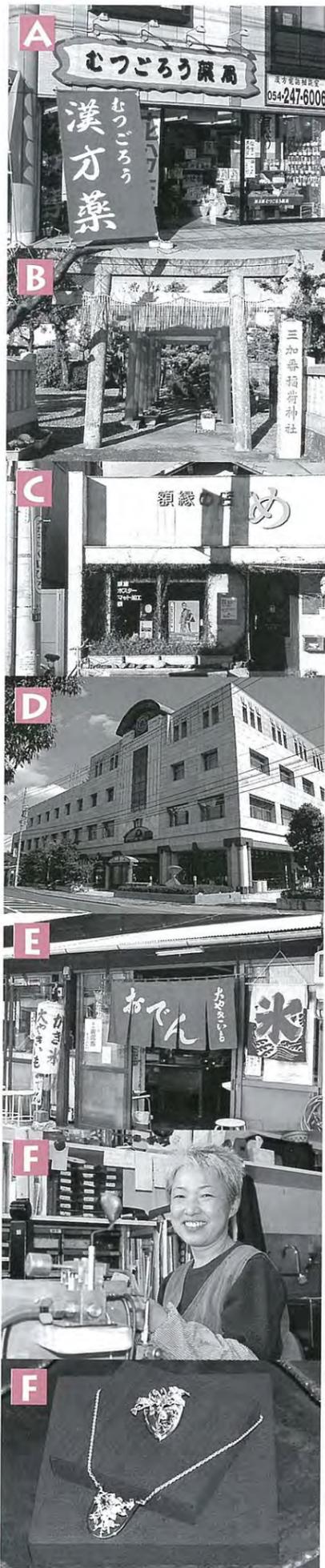
K 樹齢100年以上の熱帯の木

この木はもともと江戸時代に薩摩藩が徳川家に送った由緒あるもの。15代将軍・徳川慶喜公の屋敷を買い取った安池家が、慶喜公の屋敷内にあった木を自宅の庭に植え替えたものである。高さは約14m。隣に建つ4階建てのマンションよりも高いその姿は、100年の歴史を感じさせる。またこの木は熱帯に生息するアガティスという種類で、おそらく世界最北端の生息例とみられている。

L なつかしい住宅

長屋通りの名残を感じさせる。本誌1、2ページの長屋通りとはほぼ同じ場所。





東草深



A むつごろう薬局

B 三加番稲荷神社

C め

一見、外観からは何のお店かわからないが、ここは額縁の専門店「め」。作品を持っていくと、それにピッタリの額縁を造ってくれる。「額縁にできないものはない」とご主人。絵や版画はもちろん、石、人形、タイル、サンダルまで何でも額縁に入れてくれる。ご自身も版画や絵を描かれているだけあって、作品を引き立てる額縁を選ぶ目は確か。「め」という変わった名前には作品を見る目を大切にしたいという気持ちも込められている。

D アイセル21

E 大やきいも

F アトリエ アル・クラフト

アトリエ アル・クラフトはジュエリー作家石賀直美さんのアトリエ兼彫金教室だ。石賀さんは、年1回程の作品展を東京や静岡で開いている。その作品は、彫金と鍍金の良い所をいかし、幾何的なデザインにやわらかな流れをミックスしたもの。その固さと柔らかさ、金属の重なりから微妙なニュアンスが生まれている。作品について少し詳しく尋ねると石賀さんは「彫金や鍍金といった手法やジュエリーという枠にとらわれず、デザインによって現れる空間を表現したい。作品も装身具としてだけでなく、机の上に置いたり、小さなアートとして扱っていただければいい」と話してくれた。



長谷通り hase-dori

G 双葉屋

洋菓子を作っているのが息子さん。和菓子を作っているお父さんは89才、バリバリの現役だ。お父さんの「ありがとう」のあいさつには心が和む。

H える&英

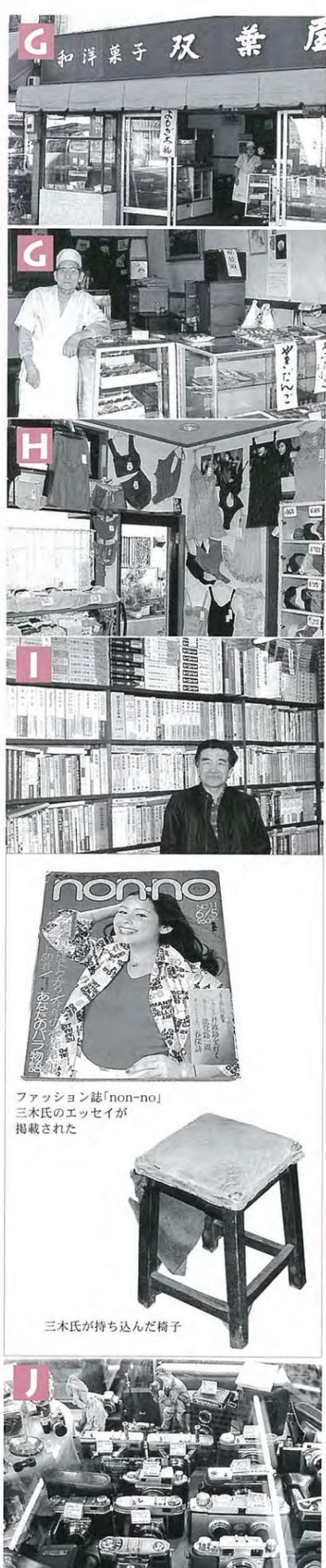
27年前からショーウィンドーのかわいい下着は通学の女子高生の目をひいている。

I 文高堂

壁と棚にぎっしりつまった古本に埋もれるようにして、文高堂のおじさんは、店番をしている。ここには、かつて静高生だった作家の三木卓氏とその仲間がよく立ち寄ったのだそう。昭和28年頃のこと、おじさんにその話を聞くとニヤッと笑って見せてくれたのは、昭和48年発行のファッション誌「non-no」。そこに掲載された「はるかな町」という三木氏のエッセイには、なんと、高校生だった三木氏と古本屋の主人、つまり、おじさんとの交流があたかく描かれていた。「放課後、よくかれの店に立ちよるようになった。本を眺め、ほしいものを選んだり、そういうことに飽きると番台のそばに立ってかれとしゃべった。幾か月すると、わたしの坐る椅子があらわれ…」実は、この三木氏の坐る椅子は氏自身が高校から持ち出したものだという。店は当時より大きくなった場所も少し変わったけれど、この三木氏の椅子は、今でもおじさんの横にある。

J チェリーカメラ

クラシックなカメラ店



ファッション誌「non-no」三木氏のエッセイが掲載された



三木氏が持ち込んだ椅子

大空を飛びたい。



鳥人幸吉 物語

「大空を飛びたい！」
人類はいつからこの夢を
抱きつづけていたのだろう。
1903年、アメリカのライト兄弟が
人類初の動力飛行に成功してから
約100年、大空どころか宇宙にまで
飛び出した人類だが、
未知なるものへの夢は、
あのころと何も変わってはいない…。

我が国で初めて飛行機をつくり、飛んだといわれている人物、鳥人幸吉が静岡に移り住み、この町でも飛んだといわれているのをご存じだろうか。謎につつまれ、数々の説をもつこの人物とは…。

1757年、幸吉は、備前国児島郡八浜(現在の岡山県玉野市八浜)の桜屋という旅館の次男として生まれた。豊臣秀吉の重臣浮田秀家の後裔ということで、浮田幸吉を名乗っていたという。

幼くして父を亡くした幸吉は、近くの親類の傘屋に預けられ、その後、岡山の表具屋で働くようになった。かなりの腕前で、得意先から指名されるほどの職人だったらしい。



幸吉の夢は、「空を飛ぶこと」。仕事の合間に、近くの寺の境内で鳩の群れをじっと眺めては、空を飛ぶにはどうしたらよいのかと考えていた。ある時、1羽の鳩を捕まえると、おもむろに翼の大きさと体重を計った。自分の体重に比例させて翼の長さを割り出せば、鳩と同じように空を飛べるのではないかと…。幸吉は持ち前の器用さを利用し、竹と木の骨組みに紙を貼って、胸の前の棒を操作して羽ばたかせる仕掛けの翼を作った。ある夜、岡山市内の旭川に架かる京橋の欄干の上に立った幸吉は、自作の翼をおもいきり羽ばたかせ、「エイッ」と踏み出してみた。翼は水平に固定され、約50mばかりではあるが、空を舞った! 幸吉28歳、ライト兄弟が初めて動力飛行に成功する118年も前のことである。しかしながら、幸吉の姿は人々に天狗と勘違いされ、お上に通報されてしまった。人のしないことをしてしまうと罪になる時代。幸吉は捕らえられ、苦心して作った翼は没収され岡山城下から所払いとなってしまった。

八浜に戻った幸吉は船乗りになり、各地を流浪することとなる。35、6歳のころ、静岡にやってきた幸吉は江川町(現在の江川町交差点付近)に落ち着き、「備前屋」の名で商売を始め、成功を収めた。ところが、何を思ったのか、突然商売からは身を引き、入れ歯師となる。生来の器用さから入れ歯は評判となり、幸吉は「備考齋」の名で親しまれた。備考齋の備は備前国からとり、考は工夫するの意味である。それに飛行の音をかけてこの名にしたらしい。ここからも幸吉の飛ぶことへの情熱がうかがえる。ちなみに、静岡では明治のころまで歯医者のことを備考齋と呼んでいたようだ。

幸吉は空を飛ぶことを諦めてしまったのだろうか。50歳を越えたといってもやはり大空への夢は捨てきれなかった。再度翼の研究を重ね、安倍川の河原で家族や職人の引く縄に引っ張られて空を飛んだのだ。それは、今でいうハングライダーの様なもので、一説によれば駿府城の上空を一周したという。また別の説では、浅間山から羽鳥の建徳寺まで飛んだともいう。幸吉は51歳になっていた。この騒ぎは、やはりお上の知るところとなり、再び幸吉は静岡を追われることになってしまう。静岡での飛行後の話にも、処刑されたとか追放されたとかいろいろの説があるが、どうも友人の世話で見付宿(現在の磐田市見付)へ逃れ、そこで結婚し、女房に飯屋をさせながら、自分はまた入れ歯師をやっていたようである。こうして波瀾の生涯を送った幸吉は、大空への夢を持ちつづけながら、91歳の生涯を閉じたのである。



西草深町に元34連隊長で航空研究者であった、竹内正虎氏が住んでいた。彼の著書『日本航空発達史』の中にも、鳥人幸吉のことが触れている。有史以前から大空への夢を人間は持ち続けてきた。かのレオナルド・ダ・ヴィンチも翼の研究をしていたという。幸吉が初めて飛んだのか、飛ばなかったのかは定かではないが、現在残る記録の中において、幸吉が誰よりも早く飛んだことは確からしい。

封建制度の元では、新しいものをつくり出すことは罪であった。せっかくの彼の才能を埋もれさせてしまったのは非常に悔やまれる。もし、彼の功績が認められていたら、歴史は変わっていたかもしれない。

しかし、幸吉は名声を手にしたかった訳でも、大金を手に入れたかった訳でもないのではないか。ただ単に、大空を自由に飛びたい、その思いが、何度不遇な目にあっても彼を諦めさせなかったのであろう。認められなくても、大金持ちにならなくても、空を飛ぶことのできた彼は、幸せだったのかもしれない。

とつても貴重な本「日本航空発達史」。西草深に住んでいた竹内正虎氏が昭和15年に発刊。

草深の街を歩いていると、いつしか静かな空気に包まれる。騒音のない穏やかな住宅街、その中に点在する教会。この静けさ、穏やかさは祈りの場がそこにあるからだろうか…？

教会のある街



日本キリスト教団 静岡教会礼拝堂

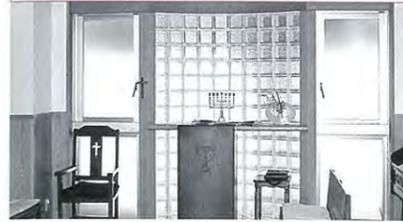
西草深、東草深とその周辺には教会が多い。教会の歴史をたずねると、草深と深く関わる駿府城、そして、徳川幕府に少なからず関わりがあるようだ。内堀に面した城内町、カトリック静岡教会の前庭には、駿府キリシタンの統領であった殉教者ジョアン原主水の銅像がある。原主水は、慶長12年(1607)、家康公の小姓のひとりとして来府し、その信仰を広めた。慶長17年(1612)、幕府の禁教令が発せられ、駿府を追放、江戸近辺で激しい弾圧を受けながらも布教を続けていたが、元和9年(1623)ついに捕らえられ、江戸芝において火刑に処せられ、壮絶な殉教を遂げる。この像は、カトリック静岡教会が宣教再開 100周年を記念して、昭和59年に建てたものだ。さて、時は流れ、禁教令を発した徳川幕府もやがて瓦解する。大政奉還をした徳川慶喜公が西草深に住んでいたのは、有名な話だが、多くの幕臣たちもこの地に流れ、苦しい生活をしいられることになる。そして、その逆境を学問によって切り開こうと、旧幕府の学問所を駿府城四足門内に設け、そこに優秀な教師と志に燃える学生たちが集まった。折りしも時代は漢学から洋学へ移り変わろうとする過度期、明治4年には、外国から教師が招かれることとなる。来静した科学教師エドワード・ワーレン・クラークは、赴任の条件にキリスト教禁止個条の撤廃を求め、科学とともに、キリスト教を伝道していく。若い学生たちにとって、新しい学問、新しい教理はいかに新鮮に胸に響いたことだろう。彼らは、そこに新時代の活路を見いだしていくのである。ちなみに、クラークを招いたのは、あの勝海舟であり、クラーク邸は駿府城址の中にあった。その後、クラークの後任には、カナダメソジスト教会のデビッドソン・マクドナルドがあたり、明治7年には、11名の青年が受洗した。彼らは、旧幕臣系の人々であり、「静岡バンド」と呼ばれ、カナダメソジスト静岡教会の基礎をなすこととなる。



日本キリスト教団 静岡草深教会



日本キリスト教団 静岡草深教会



平成6年に新しい会堂が建築された。設計は、創設者がヴォーリスにあたる(株)一粒社ヴォーリス建築事務所が担当。「ホーリー・アンド・シンプル」(聖にして簡素)をテーマに建てられたバリアフリーの教会。「教会は誰が来てもよい所です。だから扉はいつも開いています」とは牧師様のお言葉。教会前の銀杏の木の下ベンチは近所の人達のいこいの場となっている。

日本キリスト教団 静岡教会



この教会の横に現在池田山自然公園にある旧エンパーソン邸があったのはご存じだろうか。明治37年、宣教師ロバート・エンパーソンによって建てられ、明治・大正・昭和と時代の変遷する中、代々の宣教師・牧師が住み、教会の活動を見守ったこの建物は、昭和62年に移築・復元され、県内に唯一残る貴重な外国人宣教師の住宅として保存されている。



明治37年当時のエンパーソン邸

旧エンパーソン邸は、毎週土曜・日曜日、祝日の9時から16時30分まで見学できる。

日本聖公会 静岡聖ペトロ教会



教会の前にある桜の木は、春には見事な花をつけ、クリスマスシーズンには電飾が施され、道行く人の心を温かくする。

静岡英和女学院礼拝堂



今年市民景観賞優秀賞を受賞した礼拝堂は、木造の礼拝堂から建て替えられたスペイン風の建物。旧礼拝堂の木造の骨組み、ステンドグラスの面影が残されたデザインは、(株)一粒社ヴォーリス建築事務所のもの。そして、旧礼拝堂はヴォーリス本人の作品だった。

ウィリアム・メレル・ヴォーリス



ヴォーリス建築 静岡英和女学院旧礼拝堂



静岡英和女学院の旧校舎・礼拝堂、そして、高松の旧マッケンジー邸を建築した米国人ウィリアム・メレル・ヴォーリス。快活で苦難を平気できり抜ける姿は「ヤンキーのヤンキー」と称され、生涯日本の社会に貢献したヒューマンイズムは「日本人を越えたニホン人」と称された。

さて、ヴォーリスの生涯にわたる活動は伝道、建築のほか社会教育、出版、医療事業、学校教育と多彩であるが、そのすべてはキリスト教に基づく社会貢献であり、その精神は彼の建築にも如実に表れている。

ヴォーリスは、明治38年、近江八幡市にある滋賀県立商業学校の英語教師として来日した。しかし、彼の開いたバイブルクラスやYMCA活動等、宗教的な問題から生徒たちの人気とは逆に、わずか2年で教師の職を解かれてしまう。そして、これを機に伝道活動を支えるため、かつて志望した建築の仕事を始め、明治43年には、近江ミッション(近江基督教伝道団)を設立するとともにヴォーリス合名会社を仲間とともに創立、建築のみならず幅広い事業展開をし、近江セールズ株式会社へと発展させていく。その事業の一つには、家庭常備薬メンソレータム(現メンタム)の販売もあり、後に設立したユニークなキリスト教主義の会社、近江兄弟社の名前はメンソレータムのパッケージで見覚えのある方も多いのではないか。

ヴォーリス建築は、当時のアメリカ建築の流れをひいて、種々の建築様式を応用したものであるが、建築様式やデザインとは別に何よりそこで実際に生活する人の感覚で、いかに合理的に、住みよく、清潔で使いやすいかということに視点をおき、依頼者の求めに対し、最小限のコストで最大限の満足を目指したものだという。エッセイストの阿川佐和子氏はヴォーリス建築の母校(東洋英和女学院)についてこんな文を書いている。「私はあそこが好き」というお気に入りのコーナーを、生徒の誰もが個々に持っていた。(略)ヴォーリスほど、その建物のなかで過ごす人間の気持ちを優先し、大事に思った建築家は稀であろうと思われる。そのまごころは、誰が建てたか知らない人間にも、時代を隔ててなお、明らかに伝わっていたのである」

ヴォーリスは、住宅、学校、教会など1600も建築を手掛けた。そして、それは洋風建築でありながら日本の風景にしっかりと溶け込んで、その心を伝えている。

William Merrell Vories



中勘助文学記念館

小説「銀の匙」で知られる「中勘助」は、昭和18年、病氣療養のため静岡の新聞や羽鳥に滞在しました。その時住んだかやぶきの離れと母屋を復元修復し文学記念館としました。母屋の記念館には、勘助の万年筆や原稿、手紙、そして小説「銀の匙」に登場する銀の匙が展示されています。かやぶきの離れは、勘助が住んだ庵で、杓子菜(おたま菜)の盛り「杓子庵」と名付けました。ここには、生前愛用した文机や火鉢などの遺品が並べられています。

記念館では、母屋の和室を句会や茶会などの文化活動にご利用いただけます(要申込)。又、毎年6月の開館記念講演会の他、いろいろな催しが行われています。昨年は、杓子庵のライトアップとともに秋の美しい月を眺めながらの句会、音楽と読み聞かせの会、雅楽とお茶の会が行われました。



記念館での雅楽の演奏

〒421-1201 静岡市新聞1089-120
Tel:054-277-2970
開館時間/午前10時~午後5時
休館日/月曜日(祝日の場合を除く)
祝日の翌日
(日曜日の場合を除く)
年末年始(12月26日から翌年1月5日まで)
入場料/無料
利用の問い合わせ/
静岡市文化振興財団 Tel. 054-255-4746

旧マッケンジー邸

赤い屋根、スタッコの粗い白壁、アーチ型の窓…。スペインを思わせるような旧マッケンジー邸は、英和女学院の旧礼拝堂や校舎の設計者として登場したウィリアム・メレル・ヴォーリズが設計した建物である。この邸宅は、静岡市の名誉市民であるエミリー・マーガレッタ・マッケンジー夫人が住んでいた。海と富士山とが望める最高のロケーションに建ち、県内唯一の戦前の純洋風住宅として国登録有形文化財にも指定されている。見学だけでなく、文化や社会教育活動の場としても利用でき、独特の雰囲気にも人気が高い。

地域の小学校との交流も盛ん

隣接する静岡市立大里東小学校では、5年生を中心に、旧マッケンジー邸を利用して様々な活動を行っている。花壇に花を植えて育てたり、A.L.T.(Assistant Language Teacher/語学指導助手)の先生を招いて英会話を学んだり…。今後も邸内、庭、池の掃除などの活動を行っていく予定。地域の子どもたちに見守られ、旧マッケンジー邸はもっと素敵な場所になっていくに違いない。

〒422-8034 静岡市高松2852 Tel:054-237-0573
開館時間/午前8時30分~午後5時
休館日/毎週月曜日(祝日の場合はその翌日)、祝祭日の翌日、年末年始(12月26日~翌年1月5日)
入場料/無料
利用の問い合わせ/静岡市文化振興財団 Tel:054-255-4746

チケットの取扱い
●(財)静岡市文化振興財団
Tel 054-255-4746
初日の販売は
市役所新館3階臨時窓口

●静岡音楽館AOI
Tel 054-251-2200
お一人様5枚まで
市外の方は
4月2日(月)~16日(月)(当日必着)
まで郵便で予約を受け付けます。
官製ハガキ(お一人様1枚限り)に、
〒・住所・氏名・電話番号・枚数(5枚まで)
を記入して、(財)静岡市文化振興財団
(〒420-0031 呉服町2-1-1 札の辻ビル6階)
へどうぞ。
希望者多数の場合は抽選となります。
電話でのお申し込みは受け付けません。

4月11日(水) 午前9時販売開始

●鑑賞券などのお問い合わせは、(財)静岡市文化振興財団 Tel 054-255-4746

駿府城 新能

とき：5月26日(土) 午後4時30分開場
午後5時30分開演・午後8時40分終演予定
ところ：駿府公園東御門前広場(特設能舞台)
(雨天の時は市民文化会館大ホール)
演目：能「西王母」、「土蜘蛛(宝生流)」、
狂言「清水」(大蔵流)
鑑賞券：6,000円(税込)
学生席(高校生以下)2,000円(税込)
(全席指定。ただし雨天の場合、
鑑賞券裏面に指定の座席となります。)



主催/静岡市 共催/静岡県能楽鑑賞会 制作/(財)静岡市文化振興財団

ふれあい健康増進館
YURARA

ゆらら

今春 4月21日
OPEN

地球にも人にもやさしい
エネルギー循環型の
温浴&レジャースポット
家族みんなで楽しく元気に
リフレッシュ!

子供から大人まで。
楽しみながら健康づくりが
できる新型スポーツ誕生。

P 350台

◎開館時間
10:00~22:00
(日・祝日のみ20:00まで)

◎休館/毎週火曜日

温水プールやジャグジー、トレーニングルームなど
いろいろ揃った「ゆらら」。

各種教室で健康づくりが楽しめます。

※詳しくは、お問い合わせください。

お問い合わせ先
TEL:054-263-3456

- 『日本航空発達史』 竹内正虎著 相模書房
- 『町名の由来』 飯塚伝太郎著 長倉智恵雄補筆 静岡新聞社
- 『駿府の歴史』 静岡観光協会
- 『婦系図』 泉鏡花著 新潮社
- 『宣教再開百年誌』 カトリック静岡教会
- 『明治キリスト教の流域』 太田愛人著 築地書館
- 『写真集 メレル・ヴォーリズ』 制作(財)近江兄弟社他 出版びわ湖放送株式会社
- 『教会の見える風景』 荒川久治編著 地域デザイン研究所
- 『静岡英和の100年』 静岡英和女学院百年史編纂委員会
- 『静岡おんな百年(上)』 市原正恵著 ドメス出版

From Editor 編集後記

◆静かで落ちついた町並み。飛び込みの取材にも親切に応じてくださった皆様、ありがとうございます。

◆昔の面影がどこもなく残る、とても雰囲気のある町でした。「ゆっくりお散歩」が似合う町です。

◆皆様がお持ちの情報をもとに取材をしたいと思います。ご意見・ご感想・情報をドシドシお寄せください。

静岡文化情報「街かど」第17号

●発行(年2回)
平成13年3月
●編集・発行
(財)静岡市文化振興財団
〒420-0031
静岡市呉服町二丁目1-1 札の辻ビル6階
TEL.054-255-4746/FAX.054-653-3501
e-mail:bunshin@chabashira.co.jp

●印刷
株式会社パビア中央
静岡市小島一丁目6番18号

駿府浪漫バス

レトロなリズムで、
のんびり・ゆったり街巡り。

ヨーロッパを横断するオリエントエクスプレスのイメージを持つレトロバス「駿府浪漫バス」が、静岡の街を走ります。懐かしき良き時代の香りを醸し出す優雅なバスは、街並みや車窓にうつるあなたを、映画のワンシーンのように見せていきます。のんびりゆったり名所旧跡巡りに、ショッピングに、ご利用ください。



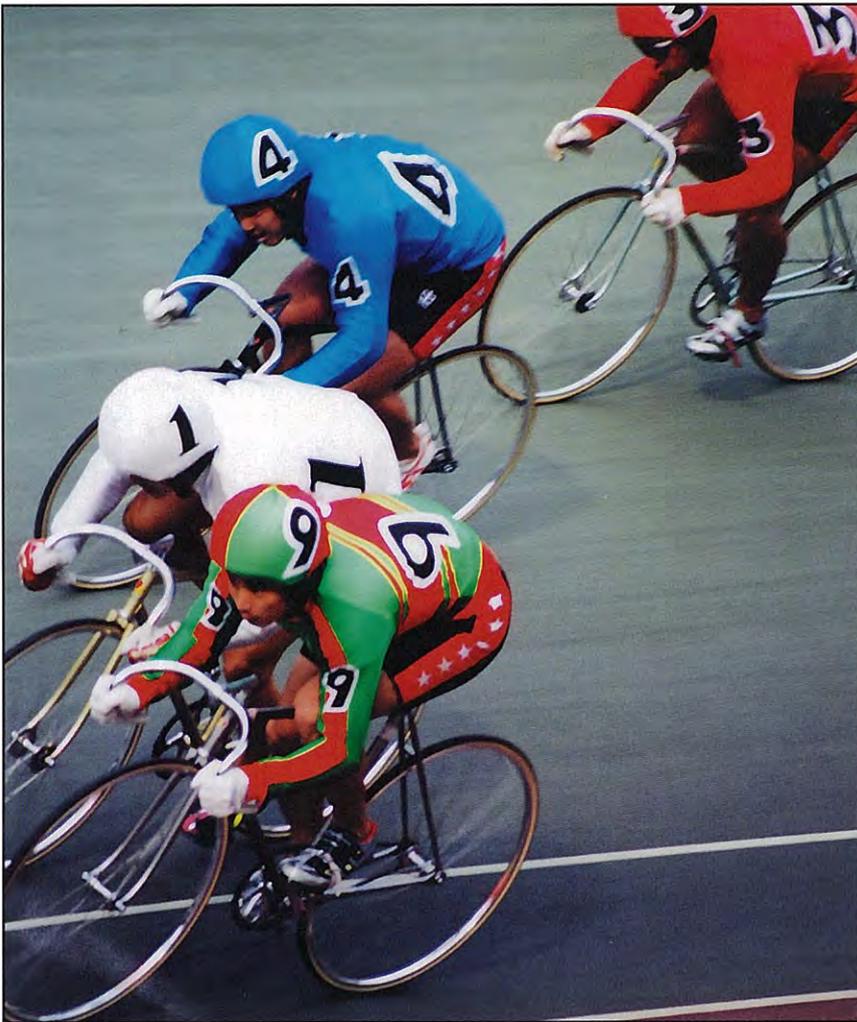
運行時間

●〔土・日祝日〕10:00~16:15 ●〔平日〕10:00~16:20

停留所	始発	終発
①静岡駅前	10:00	16:15
②新静岡	10:04	16:19
③市民文化会館入口	10:06	16:21
④中央体育館前	10:09	16:24
⑤東御門	10:11	16:26
⑥中町・日赤前	10:14	16:29
⑦NHK前	10:17	16:32
⑧英和女学院前	10:18	16:33
⑨長谷通り	10:19	16:34
⑩浅間神社	10:21	16:36
⑪赤鳥居	10:23	16:38
⑫八千代町	10:24	16:39
⑬中町・天満宮前	10:27	16:42
⑭本通三丁目	10:28	16:43
⑮七間町・いかづち神社前	10:30	16:45
⑯紺屋町	10:33	16:48
⑰御幸町	10:36	16:51

※上記時刻表は土・日祝日の時刻です。平日の最終便は16:20静岡駅前発となります。
※道路状況等により、運行時間に変動がございます。ご了承ください。
※車椅子でのご利用(1台)もできます。

お問い合わせ
静岡市観光レクリエーション課 TEL. 054-221-1183
静岡鉄道 新静岡バスセンター TEL. 054-252-0505



静岡けいりん開催日程表

日本選手権競輪 場外発売
3/20・21・22・23・24・25

スポニチ杯後節
3/29・30・31

4月前節
4/1・2・3

川崎記念競輪 場外発売
4/6・7・8

4月後節
4/14・15・16

ふるさと武雄 場外発売
4/19・20・21・22

どなたでも取り出せる、ごきげんなFAXサービス、始まりました!!



- 「予想紙が当たるお楽しみアンケート」
054-202-1589…ガイドンスに従って…7#
- 「出走表FAXサービス」
054-202-1589…ガイドンスに従って…1#
- 「オッズFAXサービス」
054-202-1589…ガイドンスに従って…3#

静岡 電話投票 38#
けいりん